

令和 6 年度 健康くまもと 21 推進会議 議事録（要旨）

開催日時 令和 7 年（2025 年）2 月 19 日（水曜日）13 時 30 分～15 時

場 所 会場参加または Teams 参加

出席委員 28 名（会場 25 名、オンライン 3 名）

石橋 素子、植村 敏聡、大森 久光、川田 賢治、古賀 久美子、
榮田 修治、佐藤 成美、高田 志保、田上 敬祐、寺岡 和廣、
東野 裕子、永田 智恵子、永野 智子、長濱 一弘、中村 好郎、
濱田 泰之、原田 直、福留 隆史、古川 直枝、巻 章子、三浦 勲、
守田 真里子、山口 弘幸、山田 浩一、米村 和広、和田 史郎、
渡辺 猛士、渡邊 信子（五十音順・敬称略）

次第

- 1 開会
- 2 健康福祉局長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 第 3 次健康くまもと 21 基本計画について
- 5 議題 健康増進計画の進捗管理について
- 6 部会報告
(1) がん部会報告
(2) 食の安全安心・食育部会報告
(3) 歯科保健部会報告
- 7 取組紹介 健康ポイント事業について
- 8 閉会

議事概要

●議題 健康増進計画の進捗管理について

《事務局》

議題について説明

《委員》

改善している項目もあるが、課題があるのも事実。別冊 1 の 4 ページ目、タバコを吸わないと答えた市民の割合が減っている点や、妊婦の喫煙率も上昇傾向に転じている点、COPD の死亡率が上昇している点など。

COPD については、日本呼吸器学会において死亡率を減少させるという目標が今回加わり、生涯通じた活動を関係団体と共同で取り組んでいくようになった。職域や地域における啓発にご協力をお願いしたい。

また、たばこについては、加熱式たばこなら良いという考えや、シーシャ（水たばこ）バーの増加もあるようである。これらについての社会的な啓発も必要ではないか。

《事務局》

加熱式たばこについては、長期的な健康への影響が明らかになっていないため、厚労省の記載を踏まえて第 3 次健康くまもと 21 基本計画では明確な記載を見送っている。今後情報収集に努め、中間見直しの際など、会議を経て反映すべきか否か議論していきたい。

《委員》

少子高齢化社会により、フレイル対策が重要である。身体的な活動のみならず、目や精神的、社会的なフレイルなども最近言われている。

《委員》

「まちの保健室」という活動の中で、フレイルについても積極的に啓発・情報提供を行っている。フレイル限らず、市民に届けるべき健康情報があればいただきたい。

《委員》

別冊Ⅰの６ページ目、糖尿病、CKD対策については非常に改善されているが、特に力を入れた取り組みについて教えていただきたい。

《事務局》

CKD対策については別途会議体があり、その中で専門医の先生方の御意見を伺いながら対策を進めている。指標の改善については新薬の影響なども考えられるが、単年ではなく数年の傾向を見るべき項目でもあるため、複数の要素が絡んでの結果であると考え。次年度以降の数値の傾向も注視していきたい。

《委員》

資料Ⅰの１８～１９ページ目、糖尿病対策、CKD対策に歯周病治療はどのように関係するのか。

《委員》

糖尿病治療のガイドラインにも、糖尿病治療に効果のあるものの一つとして、歯周病の治療が挙げられている。

糖尿病患者で、歯周病がある方に対して歯周病の治療をすると、糖尿病の指標であるHbA1cが改善することが明らかになっている。

歯周病は慢性疾患であり、治療により炎症性のケミカルメディエーター（化学伝達物質）を抑制することによって体の負担が減るためだと考えられる。

医科の先生方にも、糖尿病患者で歯周病がある方については歯科への通院を勧めていただくようお願いしているところ。

また、歯周病治療により糖尿病の状況が改善すれば、CKDへの進行を抑える効果がある。

《委員》

歯周病の治療のため歯科に通うとなると、そこではどのような指導をしていただけるのか。

《委員》

歯周病は体質によってなりやすさが異なるが、日本人成人の約８割が歯周病と言われている。歯周病にも程度があり、進行の速さも人によって異なるが、治療によりその進行の速さを遅らせることができる。

具体的には細菌の活動を抑えるため、歯磨きの指導を行う。歯磨きが歯周病のコントロールに非常に大事であり、特に夜寝る前に徹底して磨いていただくことが大事である。

《委員》

母子手帳に口移してこどもにご飯を食べさせないようにと記載されたことでむし歯は減ったため、むし歯菌の感染経路は理解できるが、サリバリウス系（※事務局注：乳酸菌の一種）の派生や伝播については不明であるため、それが歯磨きによって上手くいくのであれば良い。

《委員》

口腔内細菌については、垂直感染が多い。個人の口腔内細菌グループをそのまま受け継ぐことがほとんどであり、口腔内細菌は未だにコントロールの下にあるとは言えない。

《委員》

口腔ケアは非常に重要で、栄養等は口腔から入っていくもの。

喫煙と歯周病の関係のデータはあるのか。もし、喫煙が歯周病菌の増殖に関係しているのであれば、母子手帳などにも記載して啓発していくべき。

《委員》

喫煙と口内環境の関係では、喫煙者は口内の出血が少ない。喫煙により免疫が落ちており、細菌が活動しやすい環境になっている。

《委員》

歯周病はCOPDとの関連も言われており、非常に重要な課題である。

《委員》

こころの健康づくりも非常に重要な視点である。

《委員》

悩みがある方も、こころの健康相談や精神科受診を簡単にはできないようである。ご家族としても大変なこともあり、今後の課題がある。

《委員》

市民の多くは就労されていることから、健康経営についても情報があればお願いしたい。

《委員》

働き盛り世代が働く上で、まずはご自分の健康づくりに取り組んでいただきたい。健康経営とは経営者側が従業員の健康づくりに戦略的に取り組んで実践し、長く安心して安全に働いていく労働者を多くすることが目的である。

まずは健診の受診、そして健診の結果生活改善が必要であれば保健指導の受診、さらに必要に応じて治療を受けていただけるよう取り組んでいる。

メタボリックシンドローム該当者がなかなか改善しない傾向であることについて熊本は全国でも下位にあるため、行政をはじめ関係団体を含めて取り組んでいきたい。

以上、議事終了。

●報告（がん部会について）

《事務局》

部会から報告

《委員》

引き続き関係団体と協力のうえ、受診率の向上、早期発見・早期治療、そして死亡率の減少につなげていただきたい。

特に肺がんは死亡率が高いため、肺がん対策も重要である。

《委員》

来年度予算案に大腸内視鏡検査の導入が出ているが、導入が決まれば積極的に行い、がんの早期発見・早期治療につなげていきたい。受診勧奨にも協力していきたい。

●報告（食の安全安心・食育部会について）

《事務局》

部会から報告

《委員》

イベントにおいて食育推進についての情報発信を行政とも協力しながら行っている。

《委員》

食育推進は重点課題でもあるため、学校等関係機関とも協力のうえ継続していただきたい。

●報告（歯科保健部会について）

《事務局》

部会から報告

《委員》

フッ化物洗口について、大変な中ご協力いただいている学校の先生や保護者の方からも好意的なご意見や小学２年生で終わりとなることを残念がる声も聞かれる。

現在学校ごとの実施であるのは致し方ないと思うが、全学校の一斉実施や、学年の拡大ができると良いと思う。

フッ化物洗口にはむし歯予防効果だけでなく、うがいをするることによる口唇機能の改善効果がある。フッ化物洗口を希望されない方についても、水でのうがいを実施していただきたい。

●取組紹介 健康ポイント事業について

《事務局》

取り組みについて説明

意見なし

【閉会】